

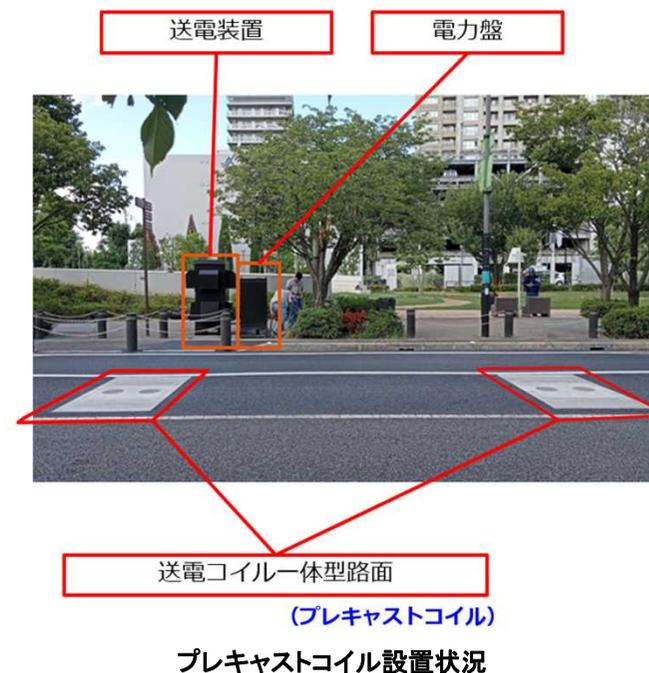
③【複数年度(1年目)】電気自動車への走行中給電による低炭素道路交通システムの実現のための実証実験(千葉県柏市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- 公道路面下に給電コイル、周辺歩道上に関連装置を設置し、他の道路利用者への影響を評価、課題の抽出・整理及び解決策を検証する。
- 走行中ワイヤレス給電に関する日本初の公道実験であるため、先行事例となる可能性が高く、推奨すべき取り組みとなること。

2. 今年度の実験内容、実験結果

- ①走行中非接触給電実証実験の開始前における説明会及び社会的受容性調査
⇒実験前のアンケート調査を実施し、走行中非接触給電システムに対する理解、認知度を確認
- ②走行中非接触給電施設整備時の他の道路利用者等への影響評価
⇒埋設工事における各段階における施工時間を計測した結果、目標値である8時間を達成できる見込みが立った
- ③電気自動車への走行中給電システムの公道での長期運用評価
⇒コイルパラメータの変化を計測し、変化率は評価基準値20%以下
- ④他の道路利用者等への影響評価
⇒埋設工事から6か月経過後、ひび割れ・轍等の発生もなく、他の道路と比較しても同等な状況
- ⑤社会的受容性の調査
⇒本実験に関する取り組みについてのポスターを掲示し、周辺住民に周知



3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
走行中非接触給電実証実験の開始前における説明会及び社会的受容性調査	道路利用者等及び地域住民・市民等に対するアンケート調査
走行中非接触給電施設整備時の他の道路利用者等への影響評価	埋設工事实施時の各段階における施工時間計測
電気自動車への走行中給電システムの公道での長期運用評価	コイルパラメータを継続して計測
他の道路利用者等への影響評価	路面状況について5段階の官能評価を継続して実施
社会的受容性の調査	道路利用者等に対するアンケート調査

③【複数年度(1年目)】電気自動車への走行中給電による低炭素道路交通システムの実現のための実証実験(千葉県柏市)

4. 今後のスケジュール

- 令和6年4月～9月 実験実施
- 令和6年10月～12月 効果分析、評価
- 令和7年1月～2月 実験結果とりまとめ

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
社会実装するためには、ビジネスを見据えた視点が必要である。	関連企業や研究機関との共同研究を継続および拡大していき、社会実装へ向け議論していく。
道路に給電コイルや関連装置等の工作物を設置する場合は、道路使用許可の対象となる可能性があることから、事前に所轄警察署と調整を行う必要がある。	県警および所轄警察署とは2022年より協議を進めており、実験に関わる道路表示及び機器類設置の道路使用許可申請の方法について内諾をいただいている。
本実験による路面標示の設置にあたっては、法定の路面標示等の整備効果を低下させないよう事前に警察本部及び所轄警察署と調整を図る必要がある。	県警および所轄警察署とは2022年より協議を進めており、実験に関わる道路表示及び機器類設置の道路使用許可申請の方法について内諾をいただいている。

6. 評価

- 順調に実験が進んでいる。
- 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。